令和５年度　かほく市立金津小学校　学校評価中間報告書

経営目標		取組内容	主担当	（昨年度末最終達成状況） 現　　状	評価の観点	達成度判断基準		備考	取組状況	達成度(判定)		後期の方向性 （改善計画等）	学校関係者評価者（学校運営協議会委員）による意見
1	学力の向上	ア★ 「ねらいを達成する授業後半の深い学びの充実」に向け、授業改善を図る。	学習指導 （釜井）	（A：90%以上） 児童同士の意見がつながったり，新たな考えを引き出したりすることができた。しかし，教師主導となることがあり，出場を見極めることが大切である。また，最後に児童が「分かった」「できた」で終わっているかの見取りをしっかりしていく必要がある。	【努力指標】 学びが深まる深めの発問や活動を取り入れている。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	教員自己評価	・毎月の5つの共通実践アンケートでも肯定的な評価をする教員が多く、授業後半を大切にしているのが分かる。週案でもタイムマネジメントを意識した深めの発問ができた時間にマーカーをつけ、毎週ふり返ることができている。	1+2 100%	A	・深めの発問はできているが、授業後半を意識したタイムマネジメントをすることや子ども同士の関りを意識した質の高い発問ができるようにしていく。相互参観や研究授業を通して、発問の精査をしていく。	・改善計画通りにお願いしたい。 ・肯定的評価100%は、取組がしっかり行われている表れである。引き続き取り組んでほしい。 ・漢字計算について 学年全体としては90%以上でよくできている。学年ごとで見ると80%台の学年があるが、求めているレベルがとても高い。 よりよい家庭額学習の取り組み方が身についていない児童もいるようなので、保護者との協力を通して、家庭学習の取り組み方の改善を図ってほしい。
		イ★ こまめな机間指導による個別指導、帯タイムの効果的な活用、1人1台端末を活用した個別最適な学習等により、個に応じた学力の向上をめざす。	学習指導 （釜井）	（A：90点以上） 漢字のもつ意味理解が不十分であるため，効果的な練習を行う必要がある。計算においては，直しを大切にして，理解の定着を図るようにする。	【成果指標】 個に応じた取り組み方を行い，基礎的な計算力や漢字の読み書きの力がついている。	学期末漢字・計算テストの平均点が A：すべての学級が90点以上 B：5学級が90点以上 C：4学級が90点以上 D：90点以上が4学級未満	Cの場合、基礎学力向上への取組方について見直しをする。	学期末漢字・計算テスト	・解き直しを重視して、着実な理解を目指した。また、ミライシードで、基礎の理解や苦手な部分の克服にも取り組んだ。授業では丁寧な机間指導だけでなく、個に応じた達成目標にすることで、意欲を高めた。	90点以上 4学級	C	・漢字の習熟においては、個人差が大きい。繰り返し学習するだけでなく、個に応じた練習方法を工夫する。計算では、自分の弱点や問題理解のポイントを整理し、考え方を身に付けるようにしていく。	
		ウ 学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。	学習指導 （釜井）	（A：5学級以上） あさはよしのレベルを明確化し，自分たちの高まりが児童自身に意識できるような手立てが必要である。	【成果指標】 5つの項目について，児童は常に意識し，一定の定着率に達している。	「返事や反応を意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	学期末児童アンケート	・今年度は反応に重点を絞り、1学期に返事、頷きながら聴くことや反応することを全校に呼びかけた。反応への意識が高まり、クラス内だけではなく、全校で集まった時にも大きな声での返事や反応をしている姿が見られた。	1+2 98.2%	A	・友だちの話を聴く時に、自分の意見との相違点を明確にしながら聴くことを意識させる。ネームプレートを活用したり、1人1台端末を用いたりして、意見の相違から活発な話し合いにつなげるようにしていく。	
		エ カリキュラム・マネジメントを推進し，自ら考え行動する力を育成する。	教務 （瀧田）	（A：90%以上） 付けたい力「課題を見出し，計画を立て，解決する力」に合わせて，低・中・高学年の具体的な目標を設定する。	【努力指標】 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して，指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・昨年度終わりの反省を踏まえ，年間指導計画の内容を変更したり，付け足したりし，実行している。 ・年度末のふり返りでは，「見通しをもち，計画する力」が向上したとどの学年からも出ていた。手立てを共有できたので，新年度からいろいろな手立てを使って実践を進めている。	1+2 100%	A	9月初めの1学期のふり返り時に，児童と教師の評価とのすり合わせから付けたい力の様子を洗い出し，後期の方向に結び付ける。	
		オ 1人1台端末を活用した効果的な学習に努める。	GIGA推進 （山口智）	（D：80%未満） ICTの効率的で効果的な活用場面や活用方法について実践を通して学ぶ必要がある。	【努力指標】 考えを交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A：年間7回以上 B：年間6回以上 C：年間5回以上 D：年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	GIGA校内研修会	・月1回のICTを用いた公開授業を通して、効果的な活用方法を学んだり、活用しようとする気持ちを高めている。	1 100%	A	・月1回程度の公開研修を今後も継続して行っていく。	
				児童アンケートでは、A（90%以上） 児童は抵抗なく活用できている。今後も積極的活用を促していきたい。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	学期末教員・児童アンケート	・積極的に活用するように促している。児童の方から自ら主体的に、クロムブックを使って、調べ学習をしたり、考えをまとめたりしている。	1+2 100%	A	・今後も積極的に活用を促していく。	

2	生徒指導の推進	ア 「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 （山口那）	（A：90%以上） 集会や放送で、ふりかえりを発表する取り組みを継続し、互いに認め合ったり、自分を見つめなおしたりできるようにする。学級ごとのめあてを具体的に決めているよさを広め、継続する。	【成果指標】 生活目標を意識し，よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返りにおいて，児童肯定的な評価をする児童が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表	・生活目標の達成率は高く、実際の児童の生活の様子もよくなってきている。クラスで具体的な目標を立てることで意識化しやすかったようだ。	1+2 92%	A	・今後も各クラスの目標の掲示や集会でのふりかえりを継続していく。	・改善計画通りにお願いしたい。
				（A：90%以上） カードのチェック項目の起床時間やメディア時間について、時刻や時間を児童と確かめながら、よい生活習慣となる目安を意識できるようにしていく。	【成果指標】 セルフチェックを通して，自己のよりよい生活習慣の定着に取り組んでいる。	セルフチェックカードの肯定的な評価をする児童が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満		セルフチェック集計表	・先あいさつと朝ごはんは95%と高かったがメディアと早寝が80%を切るなど低かった。おうちの人と相談して時間を決めてはいるが、一部守れていない児童がいた。	1+2 85.6%	B	・メディアを利用する時間が多いから早寝ができない児童もいるのかもしれない。メディアの使い方、付き合い方について学級で声かけをい続けていく。	
		イ★ 生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にする心情を育成する。	生徒指導 （佐竹）	（A：90%以上） 授業や日常の児童の頑張りをクラスや学校全体に広めていき，価値付けをすることを継続し，自己肯定感が高まるようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や，よさを伝えることに積極的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	学期末教員自己評価	・各担任が、児童の活躍の場を授業から取り入れる意識が高いので、頑張りや努力をタイムリーに褒め・認めている。	1+2 100%	A	・今後も継続して、学校行事のみならず、授業や学校生活での頑張りや努力を褒め・認めていく。	
				（C：70%以上） 少人数だからこそできる全員への良いところを紹介する活動を継続していき，児童同士で友だちの良さを見つけ認める活動を行っていく。	【成果指標】 児童は，自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満		学期末児童アンケート	・いいねカードを継続して行ってきた成果である。ただいいところはどこかではなく、見る視点を絞っていいねカードを書かせたり、他学年に書いたり、学年行事の際に応援メッセージを書きあったりできた。	1+2 80.7%	B	・応援メッセージを言葉で話して伝えることもだが、手紙に書くなど、見て頑張が実感できるものや児童同士の思いが形に残るものをプレゼントする機会を負担のない範囲で行っていく。	
		ウ★ いじめ・不登校・問題行動の早期発見に努める。事案に対しては全職員で情報共有を図るとともに、迅速にケース会議を開催し、組織的に対応する。長期の不登校に対しては、保護者も交えてケース会議を実施し、一人一人に応じた支援を継続的に行う。	生徒指導 （佐竹）	（A：90%以上） 教職員間の情報共有，管理職への・連絡・相談・報告を徹底し，組織で対応できるようにしていく。指導の記録を残していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童を中心に，全校体制で支援を行うとともに，いじめや問題行動の未然防止に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、体制及び運営について検討する。	学期末教員自己評価	・月1回の職員会議で必ず、いじめ不登校傾向の児童について情報交換を行っている。ケース会議録も記入し、更新している。	1+2 100%	A	・指導の記録、保護者との話し合いなどの記録を引き続き残していく。	
		エ 特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。	生徒指導 （佐竹）	（A：90%以上） 生徒指導の視点（自己決定，自己存在感，共感的人間関係，安心・安全な居場所づくり）を生かすことを意識して，学習や生活，行事等に取り組んでいく。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の視点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・安心できる環境づくりのために、エンカウンターやアサーショントレーニングを導入して、人間関係作りやコミュニケーション力の向上に努めている。	1+2 100%	A	・児童・教員共に楽しく取り組めていること、実施後で自分自身に他者意識をより強くしたり、意外な一面を発見するなど変化があったと実感している児童が90%以上であった。今後も継続していく。	
3	情操豊かな心の育成	ア 道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師 （山本）	（A：90%以上） 本校の重点目標である，「親切・思いやり」「希望と勇気」を教師，児童が共有していく必要がある。	【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア　中心発問の吟味 イ　言語活動の充実 ウ　価値の自覚化 エ　道徳掲示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	学期末教員自己評価	各クラスの道徳コーナーに学習したことを掲示している。また、道徳推進教師が授業を参観し、児童の様子を道徳だよりを通して家庭に発信している。	1+2 100%	A	各クラスの道徳掲示を継続していく。今後も計画に沿って道徳だよりを発行していく。	・金津の森プロジェクト、多文化ふれあいプラン等、学校CNと連携して、広く、深く地域と関わって学習活動を行っている。子どもたちにとっても、素晴らしい体験となっているのではないか。
		イ 「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	教務 （瀧田）	（A：90%以上） 学校コーディネーターと連携しながら地域の人材を活用したり，講師を招いたりして行っていく。ICTも活用しながら，他地域に金津の森の魅力を発信していく活動を進めていく。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。	学期末教員自己評価	・年度初めの「金津の森活用計画」に基づいた活動を，今年度も順調に実施することができた。	1+2 100%	A	・後期も「金津の森活用計画」を推進していく。 ・新たに金津の森を発信していく手立てを考え，計画を具体化していく。	
					【努力指標】 講師等を招き，体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、体験活動等の取組について、検討、改善を行う。		・体験活動では，低学年では「野菜植え・収穫」5年の「田植え」だけでなく，2年の校区探検や3年総合では，新しく尋ねる場所や事項を増やして新たな地域の人とのつながりを作っている。	1+2 100%	A	「金津の森プロジェクト」や1時間の授業だけで完結してしまわずに，その経験から次の活動に結び付け，継続的に講師の方と連携して活動していく。	

4	健康と体力の向上	ア 「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動 体力づくり （山口智）	（A：90%以上） 体力の向上は見られたが、体を動かす遊びが固定化している傾向がある。いろんな遊びや運動に親しむことができるようにする必要がある。	【努力指標】 教科体育において，課題となる運動能力の強化を含め，体力向上に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	指導事項を確認しながら、どのような力をつけたらいいか明確にして、指導を行っている。	1+2 100%	A	今後も学習指導要領にのっとり、必要な指導事項を落とさず、子供たちが楽しめる授業展開を工夫していく。	・改善計画通りお願いしたい。
					【満足度指標】 児童は、楽しく進んで運動に取り組んでいる	風っ子タイムに楽しく取り組んでいる児童が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末児童アンケート 体力アップ1校1プラン実施状況	・学期に2～3回の風っ子タイムを通して、運動に親しむ機会を設けている。	1+2 100%	A	今後も風っ子タイムを通して、運動に親しむ児童を増やす。	
		イ 健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全 （田中）	（教員評価A：90%以上） （児童・保護者アンケートB：80%以上） 生活習慣の向上と絡めて、目の健康についての保健指導を職員が連携して取り組むとともに，GIGAスクール推進と同時に、視力低下防止対策への継続した取組も必要である。	【努力指標】 視力をはじめ健康管理等の指導の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	視力B以下の児童の保護者にお知らせを配付し、受診勧告した。 歯科保健教育はキャラクターをとして楽しく指導できた。歯科未受診者に個別指導を行った。	1+2 100%	A	2学期は栄耀教諭等と連携して、「かむこと」の大切さについて学習し、口腔の健康や姿勢等について考える取組を行う。	
					【成果指標】 児童には，健康的で規則正しい生活習慣が定着している。	毎月のセルフチェックの結果及び学期末，児童・保護者アンケートが A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満		学期末児童及び 保護者アンケート	全校児童対象に「睡眠講話」を通して、睡眠や生活リズムを整えることの大切さを実感することができた。	1+2 100%	A	児童保健委員会活動に睡眠講話で学んだことを取り入れて活動する。	
5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	ア 各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭 （井上） 情報 （山口智）	（A：90%以上） 今後も継続して，月に1枚以上の学校便り，学級便りを出す。ホームページ更新も定期的に行い，家庭に学校の情報や教育成果が伝わるようにしていく。コドモンを効果的に活用していくことで，より情報を素早く，正確に保護者に伝えることができるようにしていく。	【努力・満足度指標】 HPや学校だより等各種たよりで，学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	日々の個別連絡等もコドモンの活用により，素早く行うことができている。 便りがデータ配付になったことで，スマートフォンでも見やすい紙面の配慮が必要だと感じる。	1+2 100%	A	内容を精選し，データ配付でも見やすい字の大きさや文章の量を心掛けた便りになるようにする。	・行事や学習活動をすぐにHPに載せてくれて、楽しみにしている。
			教頭 （井上）			肯定的な評価をする保護者が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満		学期末保護者アンケート	ホームページ，学校だより，学級だよりは計画通りに更新や配付できている。保護者もデータ配付に慣れてきている。	1+2 98.3%	A	これまで通りに，計画的な更新や配付を行っていく。	
6	多忙化改善と人材育成	ア 提案内容や会議の効率化を図るとともに、最終退校時刻の設定を行う。（毎週水曜日の定時退校の徹底）	教頭 （井上）	（C：70%以上） 定時退校日や最終退校時刻の意識化を図るとともに，業務の平準化を進める中で時間外勤務の時間を減らす。また，同僚性を高め，教職に対するやりがいを持てるような職場づくりを目指していく。	【成果指標】 各自が業務改善を意識しながら取組を進めている。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	提案内容や他の行事等を考慮に入れて，運営委員会を弾力的・効率的に行うことができた。 時間外勤務については，個人差があり，改善の余地がある。	1+2 100%	A	提案内容を見直し，終礼時やC4thの掲示板を活用することで，会議の効率化をさらに進める。	・改善計画通りお願いしたい。
		イ★ PDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握により、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭 （井上）	（A：90%以上） 今後も，全職員の共通理解・共通行動が図られるよう，各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては，特に検証・改善を確実に行い，さらによりよいものにしていく。	【努力指標】 PDCAサイクルを意識して，担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Cの場合には、取組について、指導、改善を行う。	学期末教員自己評価	各担当は担当者意識が高く，責任感をもって，業務に取り組んでいる。 検証から次の取組への改善に活かすことができるようにする。	1+2 100%	A	よりよいものを目指すばかりに業務が煩雑になったり，必要以上に時間がかかってしまうことがないように，検証や改善の重点を絞って取り組むことができるようにする。	